

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 63	福山市立明王台小学校
最終更新日	2023年(令和5年)4月12日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>学びの伸びを図る調査の結果、小学校・中学校ともに福山市の平均正答率を上回った。また、長欠未然防止に向けて、現状や対策を話し合うことで今年度の新規長欠児童生徒は減少した。さらに、メディアウィークを設定することで、メディアとの付き合い方や利用の仕方について効果があった。</p>	<p>育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”</p> <p>知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とかわる力 社会貢献力 自己形成力</p>
		<p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>自ら考え、判断し、行動できる自律した児童・生徒</p>
		<p>中学校区として統一した取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> 校区合同研修における、合意形成を意識した授業研究及び教科等部会の取組 DC教育を基に、ICTを活用した授業実践及び協議・交流の取組 家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組

III 自校

<p>ミッション</p> <p>夢を持ち その夢を実現することを通して 社会に貢献できる 児童の育成</p>
--

<p>学校教育目標</p> <p>自ら学び 豊かな心で たくましく生きる子どもの育成</p>
--

<p>現状</p> <p>〈児童生徒〉 ・全国学力・学習状況調査、学びの伸びを把握する調査、標準学力調査では、全国平均を上回った。 ・学校のルールを守る児童が増加し規範意識が高まった。 ・「無言掃除」「地域行事への参加」等、主体的に考え行動できる力を高めていく必要がある。 〈授業〉 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」児童の割合(「全国学力」アンケートが、87.9%(全国78.8%)、「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している」児童の割合(「基礎・基本」定着状況調査アンケート)が、77.1%(県65.7%)であり、どちらも平均を上回っている。今後も自分の考えをまとめて書くこと、考えを練り合い深めていくことに継続して取組んでいく必要がある。</p>
--

<p>育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”</p>	<p>主体的に学ぶ力</p>	<p>思考力</p>	<p>表現力</p>	<p>他者と関わる力</p>
<p>めざす子ども像</p> <p>生活体験や既習事項を基に、調べたり考えたりするなど、継続して新たな課題を見つけようとしている。</p>		<p>より良い解決に向け、目的や意図に心じて論理的に考えようとしている。</p>	<p>必要な情報を整理し、論理的に話したり書いたりするなどして、自分の考えを表現しようとしている。</p>	<p>初めて出会う考えにも耳を傾け、目標達成に向けて、共感しながら互いに学び合おうとしている。</p>

<p>研究</p>	<p>テーマ</p> <p>自ら学びに向かい、対話的な学習を通じて深い学びを実現する児童の育成～「やってみたい」「考えたい」「伝えたい」の思いをもって学び合う姿を目指して～</p>
	<p>内容等</p> <p>問題解決型の授業研究の実践を年間を通して行う。(プロジェクト活動型)</p>
<p>めざす授業の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の問題意識を高める場面設定 <ul style="list-style-type: none"> ・児童のなぜを引き出すような導入の工夫 ・児童の問いや疑問を基にした単元や本時の学習課題の設定 ○学びを広げ、深める活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人に考えをもたせ、意見交流する活動の充実 ・教師が児童と児童の意見をつなぐ(ファシリテーターとしての役割を果たす)

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立明王台小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	力かせ評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	力かせ評価	達成評価	総合評価
4	自ら考え学ぶ児童(主体性)の育成	★	継続	「やってみたい・考えたい・伝えたい」と感じる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の問題意識を高める場面設定を行うなど、学びを広げ、深める授業づくりを進める。 ・ICT等を活用して、児童が積極的に意見交流を行う授業づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考・判断・表現 国語80% 算数80%以上にする。(単元末テストの平均) ・「自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」児童を90%以上に ・ICT等を活用して、友だちと意見を交流し、意見が深まったと感じられる児童75%、教師70%以上にする。 								
		★	継続	自分たちで考え、進んで掃除をすることができる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班掃除を、年間を通して実施する。高学年は、手本を見せたりアドバイスをしたりする。リーダーは、下学年のがんばりや成長を評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り掃除後もプラス1掃除ができる児童を90%以上にする。(縦割り掃除後の児童アンケート・教師の見取り) 								
			継続	自分で考え、主体的に体力づくりができる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の体力向上月間を実施する。 ・「自分ギネス」カードを使って、長座体前屈の自己記録と目標レベルを示し、自ら目標を持って体力向上に努めるよう促す。(年5回計測) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自己目標に向かって進んで体力づくりに取り組めた」児童90%以上にする。(児童アンケート) ・長座体前屈が県平均を超えた児童80%以上にする。 								

2	教職員の元 気・笑顔の増 進	★ 継続 児童と向き合う 時間の確保 「子どもが自ら 考え学ぶ」授業に 向けた研究・実践 の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・一層の業務改善 を行い、授業研究 等の時間を確保 する。 ・プロジェクト型 の授業改善を進 める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもが自ら 考え学ぶ」授業づ くりにあてる時 間がある教師を 90%以上にす る。 ・授業改善につな がる授業研究が できていると感 じる教師の肯定 的評価85%以上 にする。 					
4	地域を笑顔 にする学校	新規 積極的に地域の 人やボランティア の人と関わろう とすることが できる児童の育 成	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会を中心に、 あいさつ運動を 年間3回以上実施 する。 ・地域の人やボラ ンティアの人と 連携をしながら 学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・児童・登 下校ボランティア のアンケートで「地 域の人やボラン ティアの人にあいさ つができる」児童を 70%以上にする。 ・各学年、年に1回 以上地域の方と連 携しながら学習を 進める。 					

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。